事業評価票

61	インキュベーション施設の整備・拡充支援 （産業労働局商工部／一般会計）	事業開始	平成 20 年度
		事業終了予定	平成 24 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何を目指すのか

○　インキュベーション施設とは、創業や新事業創出の促進を目的として設置され、起業者や創業者を支援するオフィス等である。

○　施設を整備することにより、オフィス等の提供のみならず、創業期に必要なノウハウの提供や他の創業者との情報交換等を促進することが可能となる。しかし、区市町村においては、計画があっても、予算面から具体化が進んでいない事例もあった。

○　区市町村のインキュベーション施設整備に係る経費の補助により、都内の施設整備を促進し、都内経済の活性化を図る。

根拠法令等	インキュベーション施設整備拡充支援事業実施要綱

2 どのように取り組み、どのような成果があったか

○　将来の地域経済の牽引役である中小・ベンチャー企業を効果的・効率的に育成するインキュベーション施設等の整備に要する経費（調査設計費、工事費、取得費）を補助。

○　地域の特性に応じたインキュベーション施設（製造業向け貸工場、ファッションデザイナー向け支援施設、靴、バッグ、アクセサリー等の職人・クリエイター向け工房など）の整備を行った。

○　インキュベーション施設整備補助実績
- 20年度…２件
- 21年度…３件
- 22年度…３件
- 23年度…１件
- 24年度…１件

※補助施設数は７施設

3 どのような課題や問題点があったか

○　これまでに、７施設の区市町村インキュベーション施設整備を補助し、都内の創業環境の整備を進めてきた。

○　しかし、現状では、創業者の起業から成長までの支援を一体的に行う仕組みが整備されておらず、起業者のライフサイクルに応じた支援を継続的に行えていない。

4 局として、事業をどうしていきたいか

拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了（○）	その他

○　区市町村が実施する新たなインキュベーション施設整備に対する補助は、ハード整備の面で一定の成果（平成20年度以降、７施設10件に対して補助を実施）が得られたため、平成24年度で本事業を終了する。

○　25年度以降は、ソフト面での支援を充実させるため、新たに「インキュベーションＨＵＢ推進プロジェクト」により、複数のインキュベーション施設が連携し、互いの資源、ノウハウを持ち寄りながら、支援機能の向上を図るとともに総合的な創業環境を整備することを支援する。

歳入	23年度決算額	― 千円	歳出	23年度決算額	11,881 千円
	24年度予算額	― 千円		24年度予算額	75,000 千円
	25年度見積額	― 千円		25年度見積額	― 千円

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか

○　本事業により、全体で７施設10件の区市町村インキュベーション施設整備の補助を行ったことから、都内の創業環境に係るハード整備面における一定の成果は認められる。

6 25年度予算で、どのように対応したか

拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了（○）	その他

○　本事業により、区市町村が実施するインキュベーション施設の整備は、ハード整備の面で一定の成果が得られたため、平成24年度で事業を終了する。

歳入	25年度予算額	― 千円
歳出	25年度予算額	― 千円